

■養成所ニュースプラス第 13 号 2025□■

九州地方を中心とする豪雨で被害に遭われた皆さんへ心からお見舞い申し上げます。

旧盆中ではありますが、今日から大阪スクーリングが始まりました。様々な地域から様々な職種の受講生が参加しています。貴重な対面の3日間を活かしてネットワーキングしてください。

Plus Quiz は「社会福祉調査の基礎」から「調査票の配布・回収方法」についての事例問題です。調査方法の特徴も確認しましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【37 回問題 82】事例を読んで、A 市地域包括支援センターが実施する調査票の配布・回収の方法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

A 市地域包括支援センターでは、担当圏域における要支援状態の高齢者 50 名を対象に、高齢者が感じている困りごとの把握を目的とした標本調査を実施することとした。センター長からの「ご家族の困りごとではなく、高齢者ご自身が感じている困りごとの把握が目的である点に注意すること」という指示を踏まえて、調査票の配布・回収方法を検討することとなった。

1. 郵送調査
2. 留置調査
3. 個別面接調査
4. 集合調査
5. インターネット調査

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(36-37 期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・(第 36-37 期生) 今夏のスクーリングの日程及び会場のご案内です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563026&c=3246&d=99c7>

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 38 回国家試験は、令和 8 年 2 月 1 日（日）です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563027&c=3246&d=99c7>
 - ・第 38 回社会福祉士国家試験『受験の手引』請求窓口が開設されました。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563028&c=3246&d=99c7>
 - ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563029&c=3246&d=99c7>
 - ・本養成所では、受験対策講座の一環として「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」を web にて公開しています。
- また、新たに保護観察官による「更生保護出張講座」を公開しました。←New

アクセスするための URL やパスワード等のお知らせは、養成所ニュースプラス第 6 号配信時に PDF データを添付しておりますので、確認のうえぜひ受講してください。

URL はこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563030&c=3246&d=99c7>

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563031&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1563032&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

今週はお休みです。次回は、無料ツールの活用についてお伝えします。

【Plus Quiz 正答と解説】

前回取り上げた「生活のしづらさなどに関する調査」は、調査員が世帯を訪問し、調査対象者に調査票を手渡し、記入及び郵送による返送を依頼するという自計式郵送調査です。

この科目では、「量的調査の方法」と「質的調査の方法」からの出題が頻出で、基本的な知識が問われます。確実に押さえていきましょう。従来、事例問題の出題は決して多くはありませんでしたが、34 回、36 回、37 回と 1 問は出題されるようになってきました。事例問題では、調査の目的や留意点を読み取ったうえで、知識を使って選択肢に当たります。この問題では、調査票を配布する量的調査を行なうこと、調査対象者は、担当圏域の要支援状態の高齢者 50 名であること、目的は高齢者が感じている困りごとの把握であること、家族の困りごとではなく、高齢者本人が感じている困りごとを把握することに留意することが読み取れます。この調査に最も適切な調査方法を判断しましょう。

1. × 郵送調査は、調査票を郵送し、回答後に返送してもらう調査方法です。郵送調査では、家族が代理回答する場合があってもそのデータを除外できないこと、質問文を自分で読むことが難しい場合、家族が手伝うと本人が本音を回答しづらくなる心配もあります。また、ポストへの投函が難しく回収率が低下する可能性も考えられます。
2. × 留置調査は、調査員が調査対象者の自宅を訪問して調査票を渡した後、後日訪問し回収する方法です。郵送調査と同様の懸念が考えられます。
3. ○ 個別面接調査は、調査員が調査対象者を訪問し、面接形式で調査票の質問を伝え、得られた回答を調査員が記入し持ち帰る方法です。この方法では、家族が同席しない状態で確実に本人から直接回答を得ることができ、質問文の読み上げ等も調査員が対応することができます。
4. × 集合調査は、調査対象者を特定の場所に集めて、その場で本人が回答する方法です。本人から直接回答を得ることができますが、他の調査対象者と同じ場所で回答しなくてはならず、困りごとについて本音で回答しづらくなる可能性があります。また、調査の場所まで移動が必要になるため回収率が低下することもあります。
5. × インターネット調査は、Web 上で質問票を示し回答を求める方法です。インターネット利用率は、70 歳代 69.8%、80 歳以上 33.1%と低く（「令和 7 年度情報通信白書」から）適当な調査方法とは言えません。また、家族が代理回答する場合があってもそのデータを除外できない問題も残ります。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus